

ロボタクシー・自動運転トラック・バスの ビジネスは成り立つのか？

～自動運転レベル4の経済性と2036年に向けたロードマップ～

—講師— KPMGコンサルティング株式会社 プリンシパル 轟木 光 氏

日時 2026年7月7日(火) 午後1時～3時
受講方法 ライブ配信/アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)

[重点講義内容]

自動運転は本当に「もうすぐ完成」するのか。本セミナーはその問いに対し、技術論ではなくコストの視点から真正面に答えます。自動運転レベル4は確かに実用段階に近づいていますが、技術が成立することと、事業として継続できることは別問題です。

ロボタクシー、高速道路限定トラック、路線バスを取り上げ、運営コストに加え、ODD(運行設計領域)を証明・維持するための費用まで含めた総コストを整理し、どの領域が本当にサステナブルなのかを検証します。あわせて、乗用車にレベル4を適用することがユーザーにとって現実的な価値を持つのかも解説します。

こうした分析を通じてレベル4の限界を明確にすることで、レベル5がなぜ極めて困難なのか浮かび上がります。そのうえで、2036年に向けて自動運転が進み得る現実的な到達点を整理し、投資・政策・経営判断を考えるための具体的な視座を提示します。

1. 自動運転への期待と現実のギャップ
2. ODDとは何か、なぜレベル4の拡大は難しいのか
3. ユースケース別コスト構造の検討
 - (1)ロボタクシー(レベル4)の経済性
 - (2)物流トラック(高速道路のみレベル4)の経済性
 - (3)路線バス(レベル4)の経済性
4. 乗用車におけるレベル4はユーザーメリットがあるのか
5. 自動運転レベル5は実現可能なのか
6. 2036年に向けた自動運転ロードマップ
7. 質疑応答

PROFILE 轟木 光(とどろき ひかり)氏

日系自動車メーカー、国内コンサルティング会社を経て、現職。自動車関連産業を中心に、商品戦略、技術戦略、新市場参入戦略などの戦略に関するプロジェクトに従事。専門領域は自動車関連産業及びモビリティの戦略構築など。公益社団法人自動車技術会エネルギー部門委員会委員。著書に、「EV・自動運転を超えて日本流で勝つ(日経BP)」、等。

